

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成24年4月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成24年3月分(3月5日～4月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	2,395	5.22	12.43	↓	10	百日咳	18	0.06	0.07	↗
2	RSウイルス感染症	134	0.47	0.32	↘	11	ヘルパンギーナ	8	0.03	0.05	
3	咽頭結膜熱	101	0.35	0.44	↘	12	流行性耳下腺炎	118	0.41	0.65	→
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	711	2.48	2.02	→	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
5	感染性胃腸炎	3,059	10.66	9.69	→	14	流行性角結膜炎	63	0.83	1.02	↗
6	水痘	279	0.97	1.38	↘	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.00	
7	手足口病	6	0.02	0.62		16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
8	伝染性紅斑	68	0.24	0.22	↗	17	マイコプラズマ肺炎	35	0.42	0.23	→
9	突発性発しん	135	0.47	0.49	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成24年3月分(3月1日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	59	2.57	2.24	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	126	6.00	5.61	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.85	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	15	0.71	1.19	→
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.60	↗	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	22	0.96	0.89	↑	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	9	0.43	0.10	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 淋菌感染症(11件→22件)
- 急減疾患 インフルエンザ(9,795件→2,395件)

### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	70	結核(70)〔西部保健所(5), 東部保健所(9), 北部保健所(5), 広島市保健所(44), 呉市保健所(2), 福山市保健所(5)〕
三類	1	細菌性赤痢(1)〔西部保健所〕
四類	3	デング熱(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(2)〔東部保健所, 広島市保健所〕
五類全数	13	アメーバ赤痢(3)〔西部保健所, 東部保健所, 呉市保健所〕, ウイルス性肝炎(1)〔呉市保健所〕, 急性脳炎(2)〔広島市保健所〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔福山市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, 梅毒(2)〔広島市保健所, 呉市保健所〕, 風しん(1)〔呉市保健所〕, 麻しん(1)〔広島市保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 海外で注意すべき感染症について

ゴールデンウィークに海外に渡航される方は、健康で快適に旅行して帰国するためには、次表にあるような感染症に対する注意が必要です。

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主な症状	予防接種	予防策
食べ物 水	E型肝炎	世界各地	発熱, 倦怠感, 黄疸		十分火の通った食べ物を食べる
	A型肝炎	発展途上地域	発熱, 倦怠感, 黄疸	○	十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	赤痢		発熱, 下痢, 腹痛		
	腸チフス		持続する高熱, 下痢, 倦怠感		
	コレラ		大量の水様便, 嘔吐, 脱水症状		
蚊	マラリア	熱帯	周期的高熱, 悪寒, 冷汗	予防薬	虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用
	デング熱	亜熱帯地域	高熱, 筋肉・関節痛, 発疹, 目の痛み		
	日本脳炎	アジア	高熱, 昏睡, 意識障害, 頭痛	○	
	黄熱	南アメリカ	高熱, 頭痛, 筋肉痛, 悪寒, 嘔吐	○	
	ウエストナイル熱	北アメリカ アフリカ 中東アジア	発熱, 頭痛, 筋肉痛, 倦怠感		
	チクングニア熱	東南アジア 南アジア アフリカ	高熱, 頭痛, 筋肉・関節痛, 倦怠感, 発疹, 関節腫脹		
動物	狂犬病	世界各地	発熱, 治癒した受傷部の痛み, 知覚過敏, 怖水・怖風症状	○	むやみに動物に触らない 犬等の咬傷を受傷後の予防注射
	鳥インフルエンザ	東南アジア	発熱, 呼吸器症状		鳥類との接触を避ける 手洗い, うがいの励行

出発前に渡航先の感染症の流行状況等に関する情報を入手しておくことは非常に大切です。詳しい情報は、厚生労働省検疫所ホームページや外務省海外安全ホームページなどをご覧ください。

### (2) 日本紅斑熱について

日本紅斑熱は、例年これからの季節に患者の発生がみられる疾患です。

主に東部保健所管内(特に尾道市, 三原市)を中心に患者が発生していますが、最近では、呉市やその他の地域でも患者が確認されておりますので、注意が必要です。

病原体	日本紅斑熱リケッチア <i>Rickettsia japonica</i>
症状	2～8日の潜伏期間を経て、頭痛や倦怠感、悪寒などのかぜ様症状とともに発熱し、38～40度の高熱が出て、四肢や体幹に米粒大や小豆大の紅斑が出現します。 日本紅斑熱の場合、典型例では四肢に強く発疹が出現し、手のひらにも紅斑がみられます。(つつが虫病では手のひらの発疹は見られません。)また、注意深く探すとダニの刺し口が見つかります。 つつが虫病と同様に、発熱、刺し口、発疹が三大特徴で、日本紅斑熱は適切な抗菌薬を用いた治療を行わないと、症状が悪化して時には死に至る場合もあるので、早期の診断と治療が重要な感染症です。
感染経路	広島県では、患者発生地域で採取されたヤマアラシチマダニから病原リケッチアが検出され、また、このダニの活動期である4月～10月に患者の発生が見られることから、ヤマアラシチマダニが媒介動物であることが推察されます。
予防方法	・ 感染予防には、ダニの吸着を防ぐことが最も重要です。山野などに立ち入ったりする際は、なるべく皮膚の露出を防ぎ、帰宅後は入浴して服を着替えるなどして、体に付着したダニが吸着しないようにしましょう。 ・ 山野やその付近に立ち入ったり、農作業をして数日後に発熱、発疹などが認められた場合には、できるだけ早い時期に医療機関を受診して、日本紅斑熱あるいはつつが虫病感染の可能性を告げ、検査・治療を受けてください。

※ 詳しくは、県立総合技術研究所保健環境センターホームページをご覧ください。

○ 「日本紅斑熱について」 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hec/hidsc-kansen-wadai-nihon-kouhannetu.html>  
パンフレット <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/41106.pdf>